

評価委員による提案に対する講評

○最優秀提案：米澤隆建築設計事務所への講評

- ・雲型の分散した屋根は、広場の開放性や賑わいととも、楽しい空気を作り出すことが期待される。暫定的かつ重層的な展開について、雲というコンセプトは巧妙であると感じた。
- ・求められている条件の多くについての配慮が記述されており、利用の仕方についてのアイデアも豊富でよい。周辺とのつながりも確保しやすい印象を受け、白い浮雲の下に、名古屋駅西のカルチャーや様々な活動による賑わいなど、東口と対比した際の西口の地域性への対応も期待できると感じた。
- ・屋根が分節されていることにより、段階的な施工や撤去が可能であり、計画的フレキシビリティが高いことも暫定整備の計画として合理的な提案と考えられ、高く評価できる。
- ・チームはまちづくりなど幅広く手掛けている一方で、建築デザインの技量は不確定であると感じた。屋根構造については、より具体的なイメージが欲しかった。また、アイデア豊富である一方で、アピールポイントが曖昧になってしまったところもある。
- ・人に近い細部のデザインの精度がこの提案の成否を決めると考えており、今後、確実性への検討を深めてよりよい空間になることを期待したい。

○次点：高池葉子建築設計事務所への講評

- ・まちの賑わいを薄金色の天井に反映させるという名古屋・秀吉＝金に紗をかけたイメージが上品な屋根は美しく、構造的にもシンプルかつ合理的でスマートなデザインである。また、動線との対応に関する完成度がとても高いと感じられた。全体としてよくできた案であり、設計者の技量はあると感じた。
- ・地表面へのこだわりが物足りなく、挿入された木質系のファニチャーなどが、どのように屋根や広場と連携するかが不明であり、そこで過ごす人々の活動イメージがよく伝わってこなかった点は残念である。
- ・これからの時代の方向と広場の提案内容、また、賑わいの創出については疑問が残る。
- ・本設に見えすぎてしまい、暫定性について疑問が残る。

○3位：Before Arch（代表者：荻原雅史建築設計事務所）への講評

- ・武家屋敷をモチーフにしている点には独創性が見られ、小さな屋根を連ねた空間スケールは西口のまちに合っていると思われる。
- ・回廊状の屋根により創られる様々なスケールと異なるキャラクターを持つオープンスペースが魅力的な提案である。
- ・武家屋敷による多様な広場に期待したが、日本文化の理解不足が見られ、惜しいと感じた。また、配置形態や地上からの眺めが必ずしも名古屋のイメージに重なるとは言えない。
- ・チームはまじめであるが、固い印象を受けた。武家屋敷というコンセプトがそれをさらに生硬なものにしていると感じた。
- ・柱の並び、間隔が歩行者の動線を縛り、開放性の不足や空間の固定化のおそれなどを感じる。また、歩行空間と滞留空間の作り方に関する具体的な提案がなく、あらゆるものが交叉し賑わう駅前広場としては形に動きがない。

○4位：あかるい建築計画への講評

- ・仮設材である単管を用いてシンボリックな場を創り出すという意欲的で力強い提案であり、空間フレームを利用して様々なプログラムを受け入れるアイデアに可能性を感じた。この案を使い切れば街は大きく変わるはずである。
- ・イベントには有効であっても、駅前広場としての日常には障害になると考えられる。また、構造物として一定期間存置するならば、描かれた軽やかなイメージの実現は難しいと思われる。
- ・段階的な施工・撤去が難しい点が問題として指摘された。
- ・どのようなプログラムと実施システムにより場の演出ができるかが大きな疑問として残る。通常時とイベント時両方を含めた運営提案が不足している。また、具体的なオペレーションを可能にするほど行政側が熟していないこともあり、提案としては良いが、現実とはミスマッチの案と思われた。

○総評

- ・西口という些か華やかさに欠ける場所と、暫定的でいづれなくなってしまうデザインという条件にもかかわらず、30件という多くの応募があった事にびっくりしました。リニア中央新幹線に対する期待と、これを機に名古屋という都市が飛躍する事を願っての提案だったと受け取りました。